

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2006～2009

課題番号：18320074

研究課題名 (和文) 地理情報システムに基づく言語地理学の再構築

研究課題名 (英文) Reconstruction of Geolinguistics based on Geographical Information Systems

研究代表者

大西 拓一郎 (ONISHI TAKUICHIRO)

独立行政法人 国立国語研究所・研究開発部門・主任研究員

研究者番号：30213797

研究分野：方言学・言語地理学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：地理情報システム, GIS, 言語地理学, 方言分布, 言語内地理情報,

言語外地理情報, オーバーレイ, 測地系

1. 研究計画の概要

本研究は、方言情報を地理情報システム (Geographical Information System: GIS) に組み込むことにより、諸種の地理情報と方言分布を総合的に分析する方法を構築し、言語地理学を新たな方向に展開させることを目的とするものである。

上記目的の達成のため、方言学と地理学の専門家が共同して、具体的な言語内外の地理情報を比較分析し、研究手法を向上させる。

2. 研究の進捗状況

(1) 研究打ち合わせ

a. GIS に関する基礎知識ならびに具体的な分析方法の確認, b. GIS を利用する上での問題点の洗い出しと対策を討議した。

(2) 方言データの作成・収集

a. 方言データの地理情報化, b. 新規方言データの調査・収集を実施した。

(3) 言語外地理情報の獲得

言語外地理情報の整理と収集を行った。

(4) 測地系の統一

地理座標フォーマットを世界測地系に統一した。

(5) 分析

方言地理情報と言語外地理情報(主に人口, 交通, 標高, 水系データ)とのオーバーレイ(重ね合わせ)を中心に分析を進め, 傾向面分析の利用方法の検討を行った。

(6) 成果報告

国内外の学会・各種研究会・研究集会・シンポジウム等で分析結果を報告し, GIS を基盤とした言語地理学の有効性をアピールし

た。

(7) 知見の共有化

得られた知見を共有化するために, a. 代表・分担者間の ML を継続活用するとともに, b. GIS 利用上のマニュアル作成を行った。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

(理由)

当初は、既存の言語内外の地理情報をベースに分析を進めることを計画していた。しかし、研究打ち合わせを通す中で、それだけでは研究目的を達成するためには不十分であることが明らかになり、研究期間 2 年目から独自の情報構築を開始した。具体的には、富山県西部の人的交流形成に大きく寄与している庄川の近隣地域を対象に臨地調査を実施し、同水系流域の 100 地点以上の集落から詳細な情報が収集できた。このデータを共同研究内で共有化することで、研究目的と研究素材の繋がりを密にするとともに、相互批評を通した研究の質を高めることができるようになった。

4. 今後の研究の推進方策

既存の言語内外の地理情報ならびに新たに取得した情報を活用して、論文化・学会発表を継続し、研究目的とする言語地理学の再構築を実現する。また、臨地調査の結果を地図として視覚化することを通して、フィールドへの還元をはかる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 32 件)

大西拓一郎 (2008)「方言資料の現在」『日本語の研究』4-1, pp.69-81, 査読：有

大西拓一郎 (2008)「方言文法と分布」『日本語文法』8-1, pp.85-100, 査読：有

ONISHI, Takuichiro (2008)“Application of GIS Technology to Studies in Japanese Dialectology” *Linguistic Atlantica* 27-28, pp.76-80, 査読：有

中井精一 (2008)「地域言語・方言」『日本語の研究』4-3, pp.98-106, 査読：有

Koji Ohnishi (2007) “Children's awareness of relationships between their own town and rice field landscapes through the experience of rice planting on the upstream of Tenpaku river” *Geographiedidaktischeforschungen* 42,pp.47-50,査読：有

[学会発表] (計 15 件)

大西拓一郎「地理情報としての方言—方言学とGIS—」空間情報シンポジウム2008, 2008年7月23日, 仙台会場(仙台サンプラザ)

ONISHI, Takuichiro “Comparing the Distribution of Dialects, Societies and Environments in Japan”, Thirteenth International Conference on Methods in Dialectology, 2008年8月5日, University of Leeds

中井精一「都市の地域特性と敬語行動—北陸富山と伊賀上野に焦点をあてて—」, 変異理論研究会131回研究会, 2008年11月2日, 岩手県公会堂

大西宏治 “Geography education with global map: A trial class in University of Toyama, Japan”, Global Mapping Forum 2008, 2008年6月6日, 国連大学(東京)

鳥谷善史「GISでことばの変化を描くために—「早川谷グロットグラム」追跡調査報告—」, 日本方言研究会第87回研究発表会, 2008年11月1日, 岩手大学

[図書] (計 3 件)

大西拓一郎, 朝倉書店, 『現代方言の世界』, 2008年, 120p.

中井精一・ダニエルロングほか, 南方新社, 2009年, 『南大東の人と自然』, 343p.

大西宏治ほか編, ナカニシヤ出版, 『図説世界の地域問題』, 2007年, 174p.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

研究成果公表サイト

<http://www2.kokken.go.jp/takoni/GISME/GISME.htm>